



災害の経験から学ぶ

2011年3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。あれからちょうど10年がたちました。区はこれまでの災害を教訓に、逃げ込む場所であった従来の「避難所」から、情報収集・発信や地域の見回りなどの機能を拡充させ災害に立ち向かう「学校防災活動拠点」へと体制を強化しました。今後も発生が懸念される大規模地震に対して全力で対策に取り組み、より災害に強いまち大田区をつくります。

地域の支え合い・備えの大切さ



みんなで支え合う「災害ボランティア活動」の充実に取り組んでいます

災害発生

災害ボランティアセンター開設

ボランティアの受け入れ

被災者の生活再建を支援

東日本大震災での被災者支援として、区はボランティアバスツアーを実施し、延べ13,000名のボランティアが宮城県東松島市で支援活動を行いました。

これらの経験を生かし、区は(社福)大田区社会福祉協議会、(一社)地域パートナーシップ支援センターと協定を結び、災害時に速やかにボランティア活動を展開できるよう「大田区災害ボランティアセンター」開設の準備をはじめとした、連携体制を構築しています。

interview / (社福)大田区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 河野由紀子さん



Q.令和元年台風19号の影響を受けた区内の様子は?

A.私たち災害ボランティアが到着したときには、すでにご近所同士の助け合いで復旧作業が始まっていました。しかしながら被災された方だけでは生活再建が困難で、ボランティアの支援が必要な現場もありました。そのような状況を目の当たりにして、「すぐに支援へ!」という思いで活動にとりかかりました。

Q.災害ボランティアは被災者にどんな支援を行うことができますか?

A.被災された方々が1日でも早く日常の生活に戻れるように、家屋内の清掃や濡れた家財の搬出などの作業を手伝います。令和元年台風19号では、延べ172名のボランティアが参加しました。ボランティア活動は作業だけでなく、被災された方の気持ちに寄り添い、被災者とのコミュニケーションも大切にしています。

防災を忘災にしないために、まずはできることから始めましょう

▶問合先 防災危機管理課防災危機管理担当 ☎5744-1519(共通)



家庭内備蓄 ☎5744-1611

災害時は、公的な支援物資がすぐに届くとは限りません。災害に備えて日頃から食品や飲料水、生活用品などを少し多めに備蓄しておきましょう。

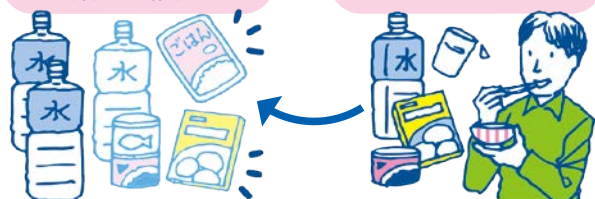
家庭内備蓄は、「循環備蓄(ローリングストック法)」がおすすめです!

普段の買い物で多めに購入し、備蓄分として保存



消費した分を
購入し補充

賞味期限が
近いものから消費



循環備蓄
(ローリングストック法)

最低でも3日分
できれば1週間分

支給・取り付けサービス ☎5744-1235

一定の要件を満たす方に無料で行っています。対象、申込方法などの詳細は区HPをご覧ください。

●感震ブレーカー

地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーの電気を自動的に止めるもので、通電火災を防止する有効な手段です。

●家具転倒防止器具

タンスなどの家具をしっかり留めることで、地震時に倒れてくるのを防ぎ、けがなどの危険から身を守ることができます。

大田区ハザードマップ震災編 ☎5744-1236

首都直下地震などが発生したときの区内の被害想定や避難場所・避難所などが確認できます。

▶配布場所 防災危機管理課、区政情報コーナー、特別出張所
※区HPからもご覧いただけます

